

第1章 平成18年度の研究について

高本 洋 西多 由貴江

1. 研究テーマ

幼児期の「学び」を探る

～社会的側面を通して～

2. テーマの設定の理由

私達は、平成15年度に指導計画を見直し、16年度には教育課程の再編成をしてきた。その際、個々の具体的な事例を検討しながら、目の前の幼児らの姿を中心に据えて作成してきたが、「☆歳児としての」や「その時期の」といった大きなまとまりや集団としての見方がどうしても求められた。そこで、もう一度保育の原点に戻って、一人一人の姿をていねいに見取っていく必要性を感じた。その際、一人一人の幼児が、遊びの中で何を学んでいるのかをしっかりと捉え直していくことが大切なのではないかと考えた。

そこで、平成17年度より、研究テーマ「幼児期の『学び』を探る」を掲げ、幼児らが遊びの中で何を学んでいるのかを探ることにした。そのテーマの下、平成17年度は、サブテーマ「からだで感じるということ」を設け、幼児らの直接体験の大切さを再確認してきた。その際、直接体験をしているからといって「学ぶ」ことができていたのではなく、「直接体験を通して、からだで感じてこそ、『学び』につながっている」ということを共通理解してきた。さらに、昨年度は、事例から読み取った「学んだこと」を4つの側面に分けて探ってきた。4つの側面とは、①動きや身体感覚といった「身体的側面」、②ものの性質や使い方といった「知的側面」、③心の中の思いの「心的側面」、④人とかわる力にあたる「社会的側面」の4つである。4つの側面に分類し、考察してきた結果、幼児らが4つの側面の様々なことを学んでいることは勿論、学年による「学んだこと」の傾向が見えてきた。しかし、10月から3月までの半年間の事例収集だったので、もっと他の遊びの場面に関しても事例を収集し、一人一人の「学んだこと」をより深く見つけていきたいと考えた。そこで、今年度も上記の研究テーマを継続することにした。

※「学び」について

私達は、一昨年度、紀要第51集において、「学び」を「経験内容を自分の中に取り入れるプロセスそのもの」と捉えてきた。続く昨年度は、紀要に明記はしていないが、園内研究会において、「経験内容を自分の中に取り入れながら、認識が変化したり、理解が深まったりしていくこと」と共通理解してきた。その際、「学び」はあくまで「学んでいるプロセス」と捉え、そ

のプロセスにおいて体得したものや経験した事柄などを「学んだこと」として位置づけてきた。今年度もその捉えを継続している。

3. サブテーマ設定の理由

昨年度、「学んだこと」を4つの側面（身体的側面、知的側面、心的側面、社会的側面）に分類し考察してきた結果、それぞれの側面の特徴が見えてきた。中でも「社会的側面」の学んだことは、人とかかわりにおいて学び取っていく内容であり、幼児期には欠かせないものであると考えている。

ところが、最近の幼児らを見ていると、自分の思いをうまく表現できなかつたり、自分の思いを押し通そうとしたりするために、友達との関係をうまくつなげない姿が見られる。また、自分と向き合えなかつたり、トラブルから逃げようとしていたりする姿も見られる。このような姿から、幼児らの人とかかわる力や人間関係を築いていく力が弱くなってきているのではないかと感じている。

そこで今年度は、「社会的側面」に焦点を当て、人とかかわる力をつけていくためには何が必要か、何を学ばなければいけないのかについて探っていきたいと考えた。

4. 研究の目的

- ・幼児期には、どのような社会的側面の学びが必要なのかを明らかにする。
- ・社会的側面の学びを支える環境の構成及び教師や友達のかかわりのあり方を探る。

5. 研究の方法

(1) 各クラス1名の幼児を抽出し、追跡観察をする。

(2) 事例を検証する。

- ①抽出児の社会的側面の学びが見られる事例を収集する。
- ②事例における幼児らのかかわり、教師のかかわりを関係図で表す。
- ③事例における抽出児の社会的側面の「学んだこと」を、学びの様相の図を用いて読み取る。

※「学びの様相」とは、事例において、まず直接体験を洗い出し、そこから「感じたこと」及び「学んだこと」を読み取っていくものである。

④学びを支える「環境の構成」「教師や友達のかかわり」について考察する。

(3) 一年を通して見えてきたことを抽出児ごとに考察する。

①すべての事例における、抽出児の「社会的側面の『学んだこと』」と「育ち」を時系列で表す。そして、それらを支える「環境の構成」や「教師や友達のかかわり」を含めて一覧にしてまとめる。

②①の一覧で表した図を下記の2点で検証し、一人一人の社会的側面での学びをまとめる。

- i 抽出児の社会的側面の「学んだこと」と育ちについて
- ii 学びを支える環境の構成と教師や友達のかかわりについて